

Chino Cultural Community

茅野市公民館報



茅野市中央公民館 ☎72-3266
茅野市宮川 4 5 5 2-2

No.690 発行:長野県茅野市中央公民館 編集:広報専門委員会 印刷:(株)中央企画 発行日:2025年(令和7年)2月1日



ゆきどけ..... 1
 公民館ってどんなところ?..... 2~4
 ピアノリニューアル・ロビー展..... 5
 公民館講座受講生募集..... 6~7
 分館あらかると・ふるさと発見..... 8

姉妹都市伊勢原市文化交流展（伊勢原市にて 詳細は次号）



広報専門委員の仕事の一つとして公民館報の校正を行っています。私も月に一度開かれる委員会では原稿の間違いを探し、この文章はこんな風にしましょうと実に気軽に発言していました。

しかし先日、何気なく目を通したネット上の記事に衝撃を受けることに。

校正とは『文章の一字一字にOK印を押していくような確認作業で、文章そのものを直してしまったりそれは書き直しになってしまいます。文章の良し悪しを直すような部分はなくとも提案するようにしましょう』というものでした。こうした方が読みやすいと善意のつもりでしたが、結局は自分の好みの押しつけになっていなかったか、書き直してアタリマエだとの思い込み・先入観でご協力いただいた著者の皆様にとってもなく失礼なことをしてしまっていたのではと大反省。自分の態度をこそ修正しなければいけませんね。改めて周りを見渡すと今までの常識や判断基準とどうまうかということが増えてきたように感じます。昨今の某国家元首選挙や国内首長選挙ではSNSなど新しいメディアが旧来の大手メディアが伝える情報を超えて影響を及ぼすケースが現実となってきました。また、今までは選択肢の一つでしかなかったスマートフォンなどデジタル機器を活用した手続きが、書面提出といったアナログよりも優先されるように。

技術の進歩や社会情勢の変化が激しい中で、これまでのアタリマエに執着してきたことを見直してもっと柔軟にいかないと、本格的に置いていかれてしまうなあと思いつつ、具体的には何もできない自分が皆さんはこういう時にどうしていますか？

(矢島 孝博)

中央公民館
外観



公民館 って どんな ところ？



公民館キャラクター
ちのまなぶくん

公民館は、生涯学習の場であり、出会い、つながる場であり、また成果発表の場でもあります。

そのために、「いつでも」「どこでも」「だれでも」、生涯を通じて学び続けられる環境づくりを目指しています。

茅野市には、宮川にある中央公民館と、10地区コミュニティセンターに置かれている地区公民館があり、生涯学習の実践や地域行事に携わっています。

さらに各区・自治会が運営する80の分館があります。また、各地区から学習・広報・体育レクリエーションの専門委員を1名ずつ選出していただき、市の活動や行事、日頃の地区行事の企画運営にご尽力いただいています。

本号では、主に中央公民館の取組についてご紹介します。

中央公民館って どんなところ？

学びの実践① 各種講座の開催

郷土を学ぶ「茅野学講座」をはじめ、法律講座やスマホの使い方等の生活課題に関する講座、人権教育に関する講座、健康、芸術、文化等を学ぶ講座等を随時開催しています。



▲茅野学講座 「坂本養川を知る」

なかには、講座で出会った人同士がグループを結成し、さらに学び合いを深めることもあります。

講座の開催案内は、公民館報に随時掲載しています。



▲夏やすみ 親子で手話講座



▲健康増進に リラックスヨガ講座

学びの実践② 高齢者大学

高齢者大学は、茅野市内在住のおおむね60歳以上の方を対象とし、「高齢者が教養、技能、運動等の学習を通して個性や能力を伸ばし、仲間づくりの輪を広げ、健康で豊かな生きがいのある生活を送ることができ」ことを教育方針に毎年開催しています。

5月から10月の間に、教養講座や技能講座、運動講座、日帰り研修等を受講します。人生百年時代の今、受講された方が、学んだことを生きる力の糧とし、百歳や、それ以上の目標にすることはもちろん、ご家族や地域の方に学んだことを伝え広めていくことを願っています。

令和7年度高齢大については、次号でご案内します



学びの場の提供

中央公民館には、一般的な会議室のほか、グラウンドピアノのある視聴覚室、鏡張りの体育室、料理実習室など、様々な活動に対応した会場があります。生涯学習のまちづくりをすすめる拠点として、市民の皆さんの自由な学習活動を支援するため、これらの会場を貸出しています。



▲ 視聴覚室



▶ 体育室

社会教育関係団体への支援



▲ 社会教育関係団体くるみーず
チャリティコンサート

ある日は、オカリナ演奏の団体が30分ほど音合わせをしたあと、「これから施設へ慰問コンサートに行ってきます！」と出かけていきました。またある日には、コカリナ演奏の団体がウクライナの子どもたちのため、チャリティコンサートを開催していました。またある日には、読書ボランティアの団体が保育園等への読み聞かせの練習と打合せにと、会場を使用していました。別のボランティア団体も子ども食堂のため、理科大生とともに料理実習室でお弁当を作っている日もありました。

その他にも、各団体が自分たちの技能を伝えるに小中学校へ指導に行くなど、精力的に活動されています。

社会教育関係団体とは、教育委員会に申請し、認定、登録された団体で、学習・文化・スポーツなど社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とした団体で、さまざまな地域貢献活動を行っています。

現在約250団体の登録があります。高齢者をはじめ、多くの皆さんが大変はつらつとされていて、「元気の秘訣はこうして仲間と笑い合うこと」とよくお話されています。

中央公民館では、社会教育関係団体の活動支援のため、中央公民館の使用料減免や団体



▲ 社会教育関係団体雅会
との共催による煎茶道講座

社会教育関係団体の 会員募集冊子 「おさそい」 (中央公民館、 地区公民館で配布中)



への助言、共催での公民館講座の開催等を行っています。

成果発表の場の提供

中央公民館は、茅野市芸術文化協会とともに、毎年秋に茅野市芸術祭を開催しています。音楽、芸能、作品展、それぞれの発表を観て、聴いて、心を動かす経験が茅野市の芸術文化の振興につながると信じています。

また、中央公民館1階口ビーは団体発表の場として随時企画展示を行っています。希望する団体が1週間程度の作品展示を行います。が、何も展示していない期間がほとんどないほどに常に作品が展示され、市民が芸術に触れる機会となっています。



▲ ロビー展

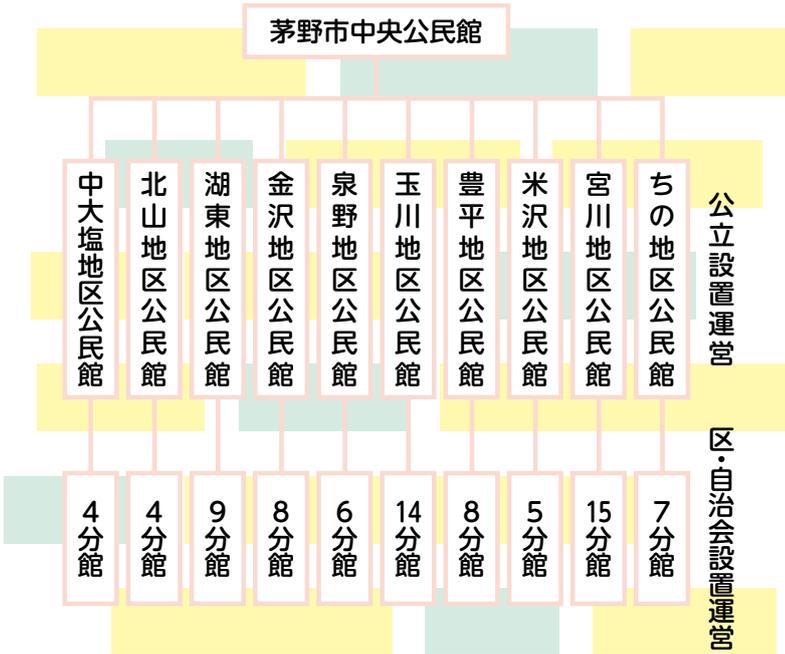
分館への支援

市内には、区、自治会が設置運営する分館が80館あります。中央公民館では、分館役員になられた方を対象に、毎年2月に研修会を開催するほか、分館事業への備品貸出など、必要な支援を行っています。



▲ 昨年の分館職員研修会

公民館組織図



“体験格差”と公民館活動の意義

広がる体験格差

最近、メディアや書籍等で「体験格差」ということばが取り上げられるようになってきました。

ここでいう「体験」は、子どもたちのピアノやスポーツ等の習い事や、休日に旅行に行くこと、お祭りに行くことなどを指します。

大人になって自身を振り返ったとき、習い事で悔しい思いをしたこと、小宮の御柱祭で地域のおじさんに担がれおつかないびつくりメドに乗せられて見た景色、市民館の舞台に立ち、大勢の前で発表した緊張感。「あのときの体験が今の自分をかたちづけている」と思えること、が、誰しも大なり小なりあるのではないのでしょうか。

「体験」の価値はその時々、楽しさだけでなく、自身の感性、自尊心、社会性を高め、心身の成長を促すと考えられて

います。

しかし、家庭の所得水準、近年の物価高騰や共働き家庭の増加など、様々な要因で習い事や長距離の旅行が、難しい家庭も増えており、子どもたちの間で格差が生じてきています。

公民館は地域のために

中央公民館では、春・夏休みにこども体験教室を開催しています。また、地域で開催されるどんど焼きや夏祭り、マスカみ、敬老会など分館の各種行事も、参加する子どもたちにとっては学校では得られない貴重な体験の機会です。

公民館は、人手はかかる割に金銭的な実入りはなく、採算性だけで考えれば不要な施設と判断されがちです。また、分館活動においても、役員のなり手不足、地域住民の高齢化など、これまで

と同じ運営は難しい時代を迎えているのも事実です。

しかしこの体験格差という問題を考えたときには、公民館だからこそ果たせる重要な役割もあるのではないのでしょうか。

未来を担う子どもたちを支えるということは、地域の未来を支えるということでもあります。そのために公民館ができることを、時代にあわせて模索し続けたいと考えます。考え続けること、それが生涯学習です。



視聴覚室 ペトロフのピアノ



ピアノ、オーバーホールします！

中央公民館視聴覚室には、平成5年に購入したチェコ・ペトロフ社製のグランドピアノがあります。

木目調で見た目にも美しく、優しい音色で数多くの音楽団体を支えてきましたが、購入から30年以上経ち、不具合も目立つようになりました。そこで、このピアノをオーバーホール（ピアノを分解し、弦の張り替えやアクションの調整等）をすることにしました。

作業の間はご不便をおかけしますが、このピアノがこれから先、茅野市の音楽をめぐる活動を支えていくことを願っています。

リニューアル記念 リレーコンサート出演者募集！

オーバーホールをして生まれ変わったピアノの完成を祝い、茅野市の音楽文化のさらなる飛躍を願ってリレーコンサートを下記により計画しています。このコンサートに出演いただける個人・団体を募集します。普段、中央公民館を利用していない方も大歓迎です。ご応募お待ちしております。

開催予定日 5月23日（金）・24日（土）各日午前10時～午後4時

会場 茅野市中央公民館2階 視聴覚室

応募条件 下記に当てはまり、平日日中に中央公民館での打ち合わせに対応できること

- ・市内在住・在学・在勤・出身でピアノ演奏できる個人（複数人での連弾可）
（プロアマ問いませんが、会場でのピアノ教室等への勧誘など営業活動はご遠慮願います）
- ・ピアノ伴奏を伴う合唱・合奏を行い、市内で活動する団体

演奏時間 個人によるピアノ演奏1人あたり10分、団体による演奏1組あたり15分（入退場含）

募集定員 個人によるピアノ演奏40名程度、団体による演奏10組程度

申込方法 開催要項を確認のうえ、応募用紙に必要事項を記入し、窓口へ提出してください（用紙は中央公民館窓口またはHPからダウンロード）

申込期限 令和7年2月14日（金）午後4時まで

その他 練習、リハーサルを希望する場合は、5月21・22日（水・木）の間で行います
発表順番は、応募時の希望に基づき、調整させていただきます

ロビー 企画展

会場 茅野市中央公民館 1階ロビー

開館時間 月～土曜日 午前9時～午後9時30分

日曜日 午前9時～午後5時30分（第3日曜日休館）

書写サークル・かきかたサークル作品展

期間 2月9日（日）午前9時～2月15日（土）午後3時

内容 サークル会員の作品約400点

主催 書写サークル・かきかたサークル

公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

和の伝統文化講座 (俳句編)

～小林一茶の生涯と句碑～

「やせ蛙 負けるな一茶 これにあり」でおなじみの小林一茶は、松尾芭蕉・与謝蕪村と並ぶ江戸時代の三大俳人の一人です。

今回の講座では、一茶の故郷である北信や、結びつきが深い下総しもつま(現在の千葉県北部辺り)の句碑と句の意味をご紹介しますとともに、俳句を作って親しむワークショップ(体験会)を行います。小学生や親子での参加も大歓迎です。

- 日時** 3月8日(土曜日) 午前10時～正午
会場 茅野市中央公民館1階 第1会議室・ロビー
講師 小池 博子 先生((公財)八十二文化財団)
矢崎 すみ子 先生(沖南信濃支部俳句会)
内容 ロビー展を鑑賞しながらのギャラリートーク、俳句を作って親しむワークショップ(体験会)
費用 無料 **持ち物** 筆記用具 **定員** 20名
受講資格 市内在住、在勤、在学者(小学生以上推奨・親子での参加可)
受付開始 2月4日(火) 午前10時～(電話またはインターネット先着順)
その他 参加者には「全国の一茶の句碑」という小冊子を配布します。また、お茶とお菓子を用意します。リラックスして、俳句を体験してみましょう。

受付開始

2月4日(火)
午前10時～(電話またはインターネット先着順)



「母馬が番して飲まず清水かな」
◀(八十二文化財団 提供)



▲申込フォーム

春やすみこども体験教室 世界の文化講座



中国の食文化や言葉に触れながら チャーハンを作って食べよう!

縄文のビーナス
プラン事業

中国発祥のチャーハンが日本に伝わったのは、日本が中国に遣唐使を送っていたころとされています。

食も言葉もその国の文化です。“外国の文化”に触れてみよう!

- 日時** 3月26日(水) 28日(金) 午前10時～午後0時30分
(どちらかの日を選んでください)
会場 茅野市中央公民館2階 料理実習室
講師 小泉 岩翠 先生
受講料 教材費500円 **持ち物** エプロン、三角巾、タッパー
定員 各回16名 **受講資格** 市内在住の小中学生
受付開始 2月27日(木) 午前10時～(電話で先着順)
その他 食材として鶏卵やハム等を使います。食物アレルギーが心配な場合はお申込み時にご相談ください。

受付開始

2月27日(木)
午前10時～
(電話で先着順)



お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266 (窓口受付は行いません)

公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

バスで行く!

春やすみこども茅野学講座

縄文のビーナス
プラン事業

まちなか美術館めぐり～矢崎虎夫の世界～

茅野市に生まれ世界的な彫刻家として活躍された矢崎虎夫（茅野市名誉市民）さんが遺された作品の中から4作品を鑑賞します。諏訪湖に建つ『八重垣姫像』鑑賞では、作品づくりのもとになった民話の朗読をお聞きします。八重垣姫がかざしている“諏訪法性の兜”も下諏訪町立諏訪湖博物館で見学します。

普段は何気なく見落としているモノの中に、大切にすべきモノがあることに気づくことがあります。春休みに計画しました。小中高生の皆さんの参加をお待ちしています。

日時 3月23日（日曜日） 午前8時45分～正午

日程 中央公民館玄関前集合 8時45分 →
『八重垣姫像』鑑賞（諏訪湖畔公園石彫公園エリア）・
『諏訪の民話』（竹村良信著）“八重垣姫”朗読 →
諏訪法性の兜見学（下諏訪町立諏訪湖博物館） →
『雷電像』『獅子・狛犬』鑑賞（諏訪大社上社本宮）
→中央公民館帰着・解散 正午

移動手段 マイクロバス

講師 作品鑑賞：川田 和弘 先生（造形作家）
民話朗読：竹内 心郁 先生（朗読プロフェッサー）

受講資格 市内在住の小学5年生から高校生（親子で参加も可）

費用 高校生以下は無料（大人は博物館入館料350円）

定員 16名

受付期間 市内在住小中高生：2月18日（火）午前10時～3月7日（金）午後5時まで
小中高生で定員に達しなかった場合は、3月10日（月）午前10時から一般の申込を受け付けます



▲ 諏訪湖上の八重垣姫像

お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266（窓口受付は行いません）

一途な恋の物語

八重垣姫

八重垣姫は、江戸時代に作られた人形浄瑠璃文楽「本朝廿四孝」に、上杉謙信の娘として登場します。

上杉家・武田家の和睦のため、八重垣姫は武田信玄の長男、勝頼の許嫁となります。ところが、勝頼はふとしたことから切腹してしまい、八重垣姫は勝頼の悲報に嘆き悲しみます。そんな中、八重垣姫は上杉家で働く箕作という若者と出会います。実は、この箕作が本物の勝頼で、切腹したのは身代わりの別人でした。

上杉謙信は、武田家が諏訪明神から賜った諏訪法性の兜を借りたまま返さずにおり、箕作（勝頼）はこれを取り戻すために上杉家に潜入していたのでした。これに気づいた謙信は、箕作を塩尻方面へ使いに出し、追っ手を差し向け打ち取ろうとします。後からこの計画を聞かされた八重垣姫は、何とかして箕作に危機を伝えたいと考えますが、女の足ではどうも追いつけません。

そこで、諏訪法性の兜にすがり一心に祈ると、諏訪明神の使いの白狐があらわれます。八重垣姫は、掲げた兜に守られて、諏訪湖の氷の上を渡り、勝頼を助けに行くのでした。矢崎虎夫さんはこの話をもとに、兜を掲げて諏訪湖を渡る八重垣姫の像を制作しました。また、講座ではこの話に登場する諏訪法性の兜を見学します。



分館あ・ら・か・る・と
ちの 仲町分館

地から、商業関係の方々が多く住む一、二丁目と、他地域から移住された方も大勢いる三、四丁目からなります。

仲町は仲のよい町
みんなで作った新しい町
ふれあいの絆が固く結ばれ
人の心がかよった住みよい町
夢と希望の
明日に向かって進む町

(区制30周年記念の唄)

昭和22年1月、永明村塚原旭町から分区して「旭町」となり、同年10月に区総会において「仲町」が制定されました。令和6年10月時点で483世帯・人口1031人です。(市HPより)

仲町はJR茅野駅東口から茅野市役所方面と、茅野市運動公園へ向かう公園大橋までの間に位置し、上川を挟んで御柱祭の木落し坂を望める場所です。

仲町区は駅に近いという立

また、年はじめのどんど焼きは、区民会館の駐車場に設けてある耐火レンガで造ったサークルの上で行います。街中でありながらも、細心の注意を払い、区民に見守られて毎年盛大に行われます。

公民館事業として
は、新入学児童を対



▲仲町 HP

特徴は、区内在住の矢崎一

さんが中心となつて平成15年に立ち上げた仲町独自のHPがあり、専門の委員会が運営していることです。毎回、各団体の活動連絡・報告等に利用されています。

象とした交通安全教室や、区民対象の健康管理教室、区民ハイキング、注連飾り作り、大塚神社例祭夏祭りへの参加等を行っています。特に交通安全教室では、仲町公民館が平成20年に交通安全優良団体として全国交通安全協会会長から表彰されました。当時優良団体表彰は、県下唯一で管内では初めてのことでした。

近年区内も高齢化が進み、空家も増えてきた一方、農地だったところがきれいに造成されて家が建ち、入区される方々も増えてきました。

このように時代の流れに合わせて様々なカタチに変化してきた仲町。これからも、どんな姿をみせてくれるのか楽しみです。

(仲町分館長 下向 正博)



▲耐火レンガ上での
どんど焼き

ふるさと発見70

長野県で見られる
低緯度オーロラ



▲2024年5月に南牧村で撮影された低緯度オーロラ (撮影：高木良輔)

所までプラズマが届くことがあり、窒素にぶつかってピンク色にも光ります。

こうしたオーロラの出現には、太陽活動が影響しています。太陽表面でフレアという爆発が起こると、プラズマ粒子もたくさん放出され、地磁気が乱される磁気嵐が起こります。太陽活動が活発なときは、フレアの頻度も高く、規模の大きなものが発生することがあります。

オーロラは、アラスカや北欧など高緯度地方で見られる大気現象です。太陽から飛んできたプラズマ粒子が、地球大気のプロトン・電子とぶつかって光ります。地球は磁石の力のバリアを持っているので、プラズマがそれを突き抜けて大気まで届くことはありません。ところが北極・南極の周辺には抜け道があり、入り込んできます。

オーロラはいろいろな色に光ります。高度100〜200kmに現れるオーロラはプラズマが酸素分子にぶつかって緑色に光り、それより上空200〜400kmでは赤く光ります。また、時折、80〜100kmの低い

2024年5月と10月には、大規模な太陽フレアが起こり、長野県内でもオーロラが撮影されました。通常、オーロラが見られない日本などの地域で観測されたものを「低緯度オーロラ」と呼びます。低緯度オーロラが赤く見えるのは、北極周辺で上空高いところまで広がったオーロラの方が日本からも見えているからです。

2024〜25年にかけて、太陽活動は活発ですから、再びチャンスがあるかもしれません。

(八ヶ岳総合博物館 渡辺真由子)